

元 気 の 源 通 信 人事労務・社会保険等手続き・助成金・給与計算	特定社労士・経営士 深川順次 福岡市博多区比恵町 11-7-701 TEL092-409-9257 FAX092-409-9258
(今月の言葉) ① 朝を制する者は人生を制する ② 即断即決の経営を行う ③ すき間時間を有効活用する ④ 社員との時間、家族との時間をしっかりとる	

2014年2月号 (第133号)

「時は金なり」

誰にでも時間は1日24時間、平等に与えられています。この時間を有効活用することが企業の業績を左右します。しかも中小企業の業績のほぼ100%が社長によって決定される。つまり中小企業の業績は社長の時間の使い方にかかっているといっても過言ではありません。今回は『絶対に会社を潰さない社長の時間術』(小山昇)から、時間の有効活用術を学んでいきたいと思います。

業績のよい会社社長は時間の使い方がうまい

朝を制する者は人生を制する

「朝の時間を制する者は、1日を制する。ひいては人生を制する」

朝時間は、ビジネスマンにとってはゴールデンタイムと言われています。それは早朝が一番集中できて能率が上がるからです。忙しい社長が自分時間として一番取れるのが早朝時間ではないでしょうか。それを活かすことが業績を左右すると言っても過言ではないと思います。

小山社長は朝4時半起床。おきたらすぐに風呂に入り体を眠りから目覚めさせます。小山社長が朝自宅でやることは、ニュースにも目を通しますが、対処すべきボイスメール、Eメール、稟議が何本あるかの全体像を把握することです。それを見て「今日はどれを優先するか」「何をいつどこで片付けるか」などを決めます。

6時には迎いの車(タクシー)が来ます。その中で部下(幹部)の報告をひたすら聞きます。幹部は「朝のお出迎え」の中で、「部下の情報、お客様の情報、ライバルの情報」について合計30分、**固有名詞を入れて報告すること**になっています。「誰が○月○日誰と何をやった」というようなことです。こうした報告ができない幹部は即日更迭します。

このような報告を受けるのは、「現場で働く人がどのぐらい頑張っているのかを知るため」です。頑張っている人がいれば、サンクスカードで感謝を伝えます。小山社長は毎年実に3000枚のハガキ(サンクスカード)を送っていると言います。

7時30分からの1時間は「早朝勉強会」です。『仕事ができる人の心得』(小山昇著)という本と『経営計画書』をもとに繰り返し価値観の共有を図っています。早朝勉強会は自由参加です。しかし、1回参加すれば500円がもらえますし、賞与でも評価されます。回数は5000回以上となり、早朝勉強会で社員の質が大いに向上したといます。

即断即決の経営をおこなう

「社長にとってすばやい決断が生命線」

現在の経営には何よりもスピードが求められています。その中ですばやい判断。トリンプの吉越社長は即断・即決の早朝会議を行い、16年間増収増益を実現しました。小山社長もまた即断・即決の経営を行い、増収増益を実現しています。まさに即断即決こそ時間効率化の最たるものです。

小山社長は言います。「判断を早くするためには体験の量を増やすこと」しかも「失敗の体験を重ねたほうがよい」と。ではなぜ、即断即決できないのか。多くの人が「損したくない」「間違えたくない」と考えているからです。

即断即決できるようになるコツは、「損してもよいと腹をくくこと」「失敗してもよいと肩の力を抜くこと」です。命取りとなる失敗は避けなければなりません、「気軽にチャレンジし、どんどん失敗すること」を勧めています。「早く失敗しておけば、それだけ経験として豊かになる。つまり早い時点での失敗は時間の先取りです。人間はなぜ失敗するのか。それは成長するためです」

「失敗体験量世界一」を自負する小山社長は、社員にも失敗させることを促しています。もちろん社員を成長させるためです。要所要所で失敗させることが素直になり、謙虚に学ぶことにつながると思います。

すき間時間を有効活用する

小山社長は細切れのすき間時間もITツールを活用して仕事に活かしています。5つのITツールをフル活用しています。ドコモとauの携帯各1台、ソフトバンクのiPhone、iPad、それにザウルスです。ザウルスは電子手帳のようなものでそれで1年先までのスケジュールを作成しています。ザウルスのデータベースには社員や経営塾のメンバーの個人情報が入っていて、いつでも感謝やお礼のハガキが書けるようになっています。

基本的には歩いているときはauの携帯電話でボイスメールを聞いたり返事を返したりしています。電車の中ではメールです。少しまとまった時間は、講義や本の原稿を書く時間に使います。細切れ時間、空き時間を活かすためには、いつ、どこで、どの仕事をやるのか決めておくことが大切だといいます。

ITツールを複数持っているのはなによりも危機管理のためです。たとえ1社で通信障害が起きても他社の携帯で対応できる。携帯を1つしかもたないと、紛失したり水没させたりすればお手上げになる。「責任ある社長は、携帯が1つでは危機管理の面からもダメだ」と強調しています。

その他、『絶対に会社を潰さない社長の時間術』では、時間の効率化を進める術として「やらないことを決める」「終わりの時間（デッドライン）を決める」「整理整頓を行う」など多くの事柄を紹介しています。

社員との時間・家族との時間をしっかりとる

「忙しくなって歌舞伎町に飲みにもいけない」これが時間の使い方を一生懸命工夫する契機だったと言います。それはともかくとして、時間を効率化できるところはできるだけ効率化し、時間をかけなければならないところはできるだけ時間をかけることが大切だと強調しています。

では、小山社長はどこに時間をかけているのか。

社員を育てる時間、社員に感謝する時間、社員とともに過ごす時間です。「社員との時間は社長の宝」と断じています。時間と場所を共有しないと価値観、コミュニケーションは深めることができないと言います。

社員を育てるための「早朝勉強会」。それ以外にもいろいろな仕組みで育てる時間をとっています。同時に1日のうち1時間は「社員が頑張っているところを探す時間」にしています。日報を見たり、ボイスメールを聞いたり、報告を受けたり、飲み屋でみんなに感想を言わせたりして「褒めるネタ」探しをしています。そして自宅へ感謝のハガキを送る。「うちの子は、どうにか会社で役に立っているようだ」「うちの父ちゃんが社長にほめられた」と家族も喜ぶ。本人もヤル気がアップする。

小山社長はいいます。「ほめることに命をかける」

「家族との時間は死んでも守れ」これもまた強調していることです。仕事人間だけになってはいけません。確かに社長業は過酷な稼業です。ある意味休みなし。しかし家族を顧みない社長は偉くもなんともありません。家族との関係がしっかりしていればこそ、仕事もはかどります。小山社長は日曜日は仕事をせず家族との時間として確保していると言います。もちろん社員にも家族との時間をとるように促しています。

また「幹部社員には長期休暇を取らせる」「社員には残業をさせるな」ということを社員教育の一環として指導しています。これについては次の機会にでも取り上げたいと思います。